

公園は住民の憩いの場であり、子供の遊び場としても必要であります。これらの公園は、矢板市内に数多くありますが、その美化活動は、どのようにして行なわれているのか、長年ボランティアで公園の美化活動が続けてこられた海瀬元之さんに五区内の取り組み状況をお伺いしました。



海瀬元之さん

◆公園の美化活動を始められたきっかけは何ですか？

シンガポールなど海外では、自宅周辺の緑地を、整備することが義務付けられています。矢板市に十二、三年前戻ってきたときに、自宅近くの公園は、草ぼうぼうの状態で、子供を遊ばせる環境ではありませんでした。それで、当時の公園担当の福島さんが一人で管理しているのを手伝ったのがきっかけでした。

◆地域の人の公園に対する考え方は、いかがでしたか？

おおよそですが、約八

公園の美化活動を個人のボランティアから住民の輪に

割の方が、整備や美化作業は、市役所がやるものという認識があったのではないかと思います。

◆活動をしていて、悩みもあったと思いますが？

犬のふんを公園内や周辺に放置したり、悪質なのは公園の砂場に埋めていく人がいます。砂場は、幼い子どもたちが遊ぶ場所ですから、不衛生極まりないのです。これだけは絶対やめてほしいと思います。また、犬を散歩させる方はふんを必ず自宅に持ち帰り後始末をするように切にお願いするところです。

◆最近の活動状況では、何か変化が見られますか？

最近では、住民の人たちに声をかけ、協力者も徐々に増え整備が進むようになりました。

◆五区では新しい取り組みがスタートしたのとありますが？

今まで話したことを背景に今年になって「公園運営委員会」（会長菊地進さん）を立ち上げ、それぞれに公園を担当委員を設けて公園の美化を最寄の住民の協力で維持する活動を始めました。

第一回を六月二十六日に実施し五カ所の公園で約百人の方が参加し剪定や草取りを行いました。このように個人のボランティア活動が住民の輪につながりました。

このような活動が、市全体に広がりを見せ、矢板市はきれいに整備されている町」と印象付けられるようになればと念願しています。



すずらん公園での清掃作業

公園は市民の憩いの場としてだけでなく今回の地震で給水場所にもなったりした重要な施設です。担当の都市建設課・市街地整備班長の荒巻正さんにお聞きしました。

■矢板市の現状は？

市の公園には、長峰公園、運動公園のように、市が事業主体となつて作った十三の都市公園と、民間の事業者が開発・分譲した住宅地内にできた六十七の地域公園があります。

■維持管理はどうなっていますか？

都市公園については、行政区長が中心になって組織された「都市公園愛護協会」が維持管理を行い、市から少しですが補助金を交付しています。

一方、都市公園法に基づき開発面積の3%の公園、緑地を確保することが義務付けられてきた地域公園については、開発後、市と事業者

とで結んだ管理協定により、土地は矢板市に、維持管理は地元が行うことになっています。

■地域公園の管理、市はノータッチ？

市としても、遊具の点検、その他設備の点検補修を行ってはいませんが、人手の問題もあり、充分行き届いてない部分があります。その地域の住民の皆さんが恩恵を受けるということ、公園を愛し、自主的に管理組織を運営していただくことを期待しています。

矢板市の公園管理・どうなってるの？

皆様の協力をお願いします。お気づきの点があればお知らせ下さい。

四四三・六二二三



夏に向けて手軽で簡単な節電をご紹介します！

今年は、去年と比べ涼しい夏になると言われていますが、梅雨明け前から毎日のように猛暑が続いて、暑が続き、かわら版記者もすでに夏バテ気味です。

この暑さで夏の電力供給は、大丈夫なのか心配になってきました。みなさんは、節電に取り組まれていますでしょうか？

そこで、このたび節電についてアンケートを行い、その中からすぐ実践できる節電方法や、涼しく過ごす方法をご紹介します。

今年は、去年と比べ涼しい夏になると言われていますが、梅雨明け前から毎日のように猛暑が続いて、暑が続き、かわら版記者もすでに夏バテ気味です。

かわら版記者の中でも、みずたんぼで涼をとるのはどうかという意見があり、さっそく試してみました。

まずは、水だけで試してみました。みずたんぼを入れておく布団が、ひんやりとして、これから夏にむけて、快眠の助けになると感じました。

その後、水を入れてみたところ水滴が付いてしまいましたので、お気を付けてください。

今号から、若者が、かわら版記者に書く機会となり、取材・記事をとることができました。記者の平均年齢が15歳下になったかも？

編集後記